

普及やいま

第149号

発行

八重山農林水産振興センター
農業改良普及課

沖縄県石垣市真栄里438-1

TEL 0980-82-3497 Fax 82-4142

与那国駐在

TEL 0980-87-2354(代)

平成31年度 アグリチャレンジ起業者育成事業

農業の生産から加工・販売まで、6次産業化に取り組む担い手や産地を支援し、農家所得の向上を図ることはもとより、農業と観光産業のマッチングなどを通して、地域農産物の高付加価値化や、新たな販路開拓を実現する起業者の育成を図ることを目的に、委託業者と商品開発支援、研修会の開催、販路拡大の推進に取り組んだ活動を紹介します。

(担当:白玉)

委託事業者との連携:加工商品の販売活動促進

個別相談会開催:2回実施
「商品提案シートの作成」

R2/1/25:販売促進会:JAファーマーズマーケットゆらていく市場

研修会
「売れる商品づくりと販路拡大」

R1/10/7~8:視察研修会IN宮古島

アグリ講座5回開催:HACCPの実践
に向けてR1/10/25:アグリ講座「新商品の
検討会」R2/1/21:新商品開発支援:
バニラビーンズプレスリリース

九州・沖縄地区青年農業者会議

大浜さん 全国大会出場権 獲得！

大浜一将氏 後列左から2番目

7月18、19日に佐賀市で開催された令和元年度九州・沖縄地区青年農業者会議のプロジェクト発表において、沖縄県代表として竹富町西表島の水稲農家である大浜一将氏が「ぼくの強みは商売っ気～my(米)アイデアで商売繁盛！～」と題して発表し、土地利用型作物部門における最優秀発表者に選ばれました。

離島のハンディ克服のため「独自価格での販売」、「高付加価値化」、「循環型農業の実践」に取り組み経営向上に繋がった点や、地域資源を活用した点が高く評価されました。

大浜氏は九州・沖縄地区代表として令和2年2月開催の全国青年農業者会議へ出場します。

沖縄県青年農業者会議

宮良さん 最優秀賞、野原さん 優秀賞宮良貴秋氏
野原友広氏前列左から2番目
前列左から3番目

11月1日に那覇市で開催された令和元年度沖縄県青年農業者会議のプロジェクト発表の部において、黒島農業青年クラブの宮良貴秋氏が最優秀賞に選ばれ、令和2年7月に同市で開催される九州・沖縄地区青年農業者会議への出場が決まりました。

意見発表の部においては、西表島農業青年クラブの野原友広氏が「今やりたいこと」と題して発表し、優秀賞に選ばれました。宮良氏は、「『よい牛は、よい草から！』～黒島の牧草品質向上プロ

ジェクト～」と題して発表。自給粗飼料を活用した低コスト経営を実現するため「牧草の品質向上」を目的とした牧草コンテストを農業青年クラブ主体で開催し、当初に比べ母牛の繁殖障害の要因となる硝酸態窒素濃度が減少するなど、黒島全体の牧草品質向上に寄与した点が評価されました。

(担当:友寄)

もっと活用しよう 認定農業者制度

～確実な再認定 & 家族経営協定を結び、共同認定で一步先へ～

「認定農業者制度」とは

農業者自らの創意工夫により経営改善を進めようとする意欲的な経営改善計画を市町村が認定し、これらの認定農業者に対しては**重点的に支援措置**を講じる制度で、八重山では現在300余の農業者が認定されています。認定農業者となって地域の担い手と認められると同時に、以下の制度の活用資格も得られるというメリットがあります。

- ①経営所得安定対策事業など認定農業者向けの各種補助事業
- ②制度資金借入時に金利を優遇
- ③農業者年金の保険料補助 など

認定の有効期間は**5年間**で、再び認定農業者となるためには、新たに作成した経営改善計画書で再認定を受ける必要があります。



ご存じですか？家族経営協定

家族経営協定とは、家族1人ひとりがお互いを対等な仲間として認め合い、共同的に農業経営を営むもので、経営方針や目標・役割・就業条件を家族で話し合いながら取り決め、明文化するものです。協定に**①収益の分配②全員の合意による経営決定**、を明記することで**認定農業者を共同申請**でき、**家族それぞれが上記のメリットを活用**できます。

問い合わせ先：

八重山管内の各市町村 農政関係担当課へ
 石垣市農政経済課 :0980-82-1307
 竹富町産業振興課 :0980-82-3116
 与那国町産業振興課:0980-87-3582

(担当:大前)

与那国町情報 ～令和1年度（平成31年度）の動き～

1. さとうきび

★与那国町「さとうきびの日」関連行事

与那国町農業構造改善センター等で令和元年度与那国町「さとうきびの日」関連行事が開催されました。第43回沖縄県さとうきび競作会にて**多量生産の部（農家）**で県1位となった松原氏の伝達表彰や与那国町内で優秀な成績を収めた生産者が表彰された他、県営農支援課の川之上農業革新支援専門員による講習会や島内優良ほ場の現地検討会が実施されました。



★R1/2年期の操業予定について（参考：JA与那国支店製糖操業説明会）

今期の製糖日程はR1年12月4日～R2年3月31日（原料搬入日数107日間）、生産量は**5,850t（昨年比90.8%）**と予想されており、前期の実績を下回る見込みとなっています。生産量低下の要因としては、**株出管理作業の遅れ**や**台風や大雨等の気象災害**による影響が推測されます。



2. 畜産

★寒地型牧草（イタリアンライグラス）について

冬場は普段使用している暖地型牧草（トランスバーラ、ローズグラス等）の生産性が低くなり、牧草の確保に困る生産農家も多いかと思えます。

現在、与那国町内では**イタリアンライグラスの栽培試験**を行っており、**冬場の自給粗飼料確保**に向けて取組みを進めています。



(担当:玉城)

沖縄本島で豚熱発生！ 防疫を徹底しましょう！

今年1月から2月にかけて、沖縄本島で、豚熱(CSF、いわゆる豚コレラ)が発生し、10,903頭の豚が殺処分されました。現段階で新たな発生はないものの、決して油断できません。生産者の皆様におかれましては、「家畜飼養衛生管理基準」を参考に、より一層の防疫対策を実施して頂きますようお願いいたします。

～今すぐ出来る対策の事例～



長靴の使い分け



視察対応時の防護服着用



踏み込み消毒槽の設置
(担当: 本田)

水稲一期作植付開始！ ジャンボタニシ被害防止のポイント！

①移植後1ヶ月間の浅水管理(1～4cm)

ジャンボタニシが食べるのは、移植後約3週間です。また、水深が4cm未満では活動が鈍くなり、イネの食害も少なくなります。是非浅水管理を！

②成苗を移植

貝は、柔らかい小さな苗を好んで食害します。4葉期以上の中～成苗を植えましょう。

③収穫直後の耕耘による粉碎、進入防止、移植前後の貝の除去、卵塊の除去

収穫直後、田面が堅い時に耕耘すると貝の破碎効果が高いです。入水口にネット(5～10mm)を張るなどして、水路からの侵入を防ぎましょう。2cm以上の貝は水田に入れないようにしましょう。貝と卵塊は見つけたらすぐに取り除く(素手厳禁!)のも被害回避効果に期待できます。各地区で取り組みましょう。

④農薬による防除

○毒餌(ベイト)剤による殺貝効果と食害防止効果がある剤

- ・スクミノン(メタルアルデヒド粒剤)
- ・スクミンベイト3(リン酸第二鉄粒剤) ※有機農産物JASに適合

○食害により一時的麻痺効果のある剤: チオシクラム粒剤(スクミハンター) ※長期間効果あり(約2週間)

⑤石灰窒素による防除

生育中の稲に対して薬害があるので、田植え前か、収穫後水田に施用して殺貝しましょう。
※基肥量の調整、魚毒性に対する配慮、その他使用時の注意事項など十分注意しておつかいください。

(担当: 寺島)

